

徳島市津田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- よくわかる授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。
- 表現力・コミュニケーション能力を育てる授業の充実。

校長

永井 武

学力向上推進員

近藤 美香子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○簡単にできるものや興味のある課題には意欲的に取り組む姿が見られる。</p> <p>○読書に興味をもち、素直に取り組む児童が多い。自分の興味のある本を選び、読書に取り組む児童が増えている。</p> <p>●学力の二極化が進んでいる。学習内容が十分身に付いている児童もいるが、身に付いていない児童が多い。中間層が少ない。</p> <p>●語彙力に課題が見られる。</p>	<p>・当該学年の漢字の読み書きや整数の四則計算等、基礎・基本の内容については、70%以上を正答することができる。</p> <p>・ドリルやタブレット端末等を使用し、自分の力に合った課題に取り組むことができる。</p> <p>・語彙力を活用し、読み取ったり、聞き取ったりする活動に根気強く取り組むことができる。</p>	<p>・「つだっこスタディサポート」について教員間で情報共有し、活用していく。</p> <p>・朝の活動や授業の開始5分を、ミニ漢字テストや計算問題等の基礎・基本に活用する。</p> <p>・タブレット端末等を活用し、漢字の読み書きや四則計算等の基礎・基本の内容を反復して取り組ませる。</p> <p>・自作プリント・脳トレなどを活用し、楽しみながら漢字の書き取りや計算問題に触れる機会を設ける。</p> <p>・読み聞かせや読書、視写、聴写などの活動を取り入れ、言語に触れる機会を積極的に設け、児童の語彙力を高める。</p> <p>・語彙力を高めるために、国語辞典や漢字辞典を積極的に活用したり、図書館と連携し、図書を充実させたりする。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○発表の仕方の例を示すことで自分の思いを伝えることができる。</p> <p>○自分の意見や考えをノートに書いたり、タブレット端末等を使ってプレゼンを作って発表したりすることができる。</p> <p>●自分の思いを伝えることに苦手意識がある。言いたい思いはあるが、どうすれば良いか分からない。そのため、自信がなく声が小さい。</p> <p>●自分の考えの理由や根拠を明確にしながらかいたり、相手の話を正確に聞き取ったりすることに苦手な傾向がある。</p> <p>●他者の意見を最後まで聞き、自分の考えに反映させたり、反論を述べたりすることができる。</p>	<p>・自分の考えをもち、理由や根拠を明確にしながらかいたり、伝えたりすることができる。</p> <p>・相手の話を正確に聞き取ることができる。その上で、多様な意見を尊重することができる。</p> <p>・他者の意見を自分の考えに反映させたり反論したりして、話し合うことができる。</p>	<p>・教員間で「つだっこナビ」についての共通理解を図る。</p> <p>・「つだっこナビ」の積極的な活用により、各学年に応じた話し方・聞き方を習得させる。</p> <p>・授業の中で様々な表現方法を体験させながら、簡単な内容や活動から取り組ませ、コミュニケーションを図る機会を増やす。</p> <p>・聞くことに重点を置き、質問や場の工夫を取り入れ、児童が意欲的に聞こうとする機会を継続的に設ける。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○新しい課題や体験的活動など、興味のあることには意欲的に取り組むことができる。</p> <p>●今までに学習したことをつぎの課題や生活に生かそうとする態度が育っていない児童がいる。</p> <p>●学習意欲の個人差が大きい。学年が上がるにつれて、自尊心や自己有能感が低くなる傾向があり、学習意欲にも影響が見られる。</p>	<p>・めあてをもって主体的に取り組む、自分なりの方法で課題解決できる力を身に付ける。</p> <p>・自分の学習を振り返り、失敗したことや今までに学んだことを、次の学習や生活に活かすことができる。</p>	<p>・ポジティブ行動支援を意識し、児童のできることを認め、伸ばしていくとともに、主体的な学習を進めるため、教材・教具の開発や、ICTの活用、教師の指導法を工夫する。</p> <p>・めあてを明確にした授業、児童の興味・関心や問題解決の必要性を踏まえた授業を展開する。</p>			

令和7年度 学力向上ロードマップ

